

秋田市人口ビジョン（改訂原案）に対する意見一覧（パブリックコメント）

NO.	意見内容	市の考え等
1	<p>県都「あきた」創生プラン(原案)の数値化された目標が、どれだけ達成された場合、秋田市の将来人口にどの程度インパクトがあるのかを記載すれば、読む人(人口ビジョンを)に納得を与えられるのではないかと思います。</p>	<p>創生プランから必要な事項を取り込み、人口減少対策をまとめる次期総合戦略においても、数値目標等を設定することとしております。目指すべき将来人口約26万人(2040年)の実現に向け、同戦略に掲げる目標の達成に努めてまいりたいと考えております。</p>
2	<p>【P24:市道の延長について】 ①年々減少している人口に対し、新しく延び続けている道路。本当に必要なのでしょうか。 ②これからは、自家用車のためではなく、公共、例えば路面電車など希望したいです。</p>	<p>①開発行為により市に帰属を受けた道路や住民要望により市に寄附を受けた道路などを市道に認定しているものであり、市民には必要なインフラであると考えております。 ②LRT(次世代型路面電車システム)などの道路部分を活用した新たな公共交通については、本市への導入を考えた場合、軌道敷確保や導入のための経費負担、運行主体などの課題も多いことから、まずは本市の立地特性に合わせた公共交通の充実に努めてまいります。</p>
3	<p>【P38:2 人口の将来展望(2)について】 秋田市の総人口の推移はこの先シミュレーションをみて間違いなく、減少しますが、減少率を少しでも遅らせるには、子供が増える事はないので、高齢者を都会から移住出来る政策をとるのが良いと思います。マンション住まいだと、雪ヨセが必要ありませんし、駅の近くに買い物が出来、病院があり、又、芸術等を楽しめる魅力のあるまちづくりが必要だと思います。元気な人だと20年以上生きると思うので減少を遅らせられると思います。</p>	<p>現在本市では、主に若者や子育て世代をターゲットとした移住施策を実施しておりますが、「選ばれるまち」となるためには、全ての世代が住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを進める必要があると捉えております。 市民一人ひとりが健康で心豊かにいきいきと暮らすことができるよう、若い世代が子どもを産み育てやすい環境づくりや、その生活の基盤となる魅力的で安定した仕事の場づくり、地域資源を活用した人を惹き付けるまちづくりに加えて、福祉をはじめ市民のくらしの安全・安心を守る取組など、まちとしての総合力を高める施策を実施してまいりたいと考えております。</p>
4	<p>全体を通しての意見を述べます。 秋田市企画財政部人口減少・移住定住対策課による人口現状分析は、緻密で将来の見通しがデータに基づいて、大変分かりやすく提示されています。 人口減少に伴うリスクの増大や今後生産年齢人口の減少に歯止めが効かない状況を見るにつけ、気持ちが減入ってしまいます。 しかしながら、マイナス要因だけを打ち出して、できる限りその減少を食い止める策を講じているのは、その対策は全国の各都道府県が行っていることのお復習いになる可能性は否定できません。 私としては、1 人口の現状分析に29ページ割くのであれば、2 人口の将来展望にそれ以上のページを盛り込む知恵を絞ってほしいと思いました。 P34～P35にある「秋田市に住み続けるために必要なこと」、特に10代、20代の考えは、短期的に解決できることではありません。しかしながら、全体の結果も同様の傾向を示していることから、10代、20代の10年後、20年後を見据え、中長期的なスパンで改善できる施策を大局的に講じていく必要があると思います。これらの若者が秋田市に残り、秋田の新しい人口を支えていく世代となり得るからです。 それは、図表49「今後も秋田市に住み続けたいか」の設問にある通り、約74%もの市民が継続を望んでいることから理解できます。</p>	<p>人口ビジョンは、本市の人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す、計画策定の基礎となるものであり、同ビジョンに掲げる将来の目指すべき姿の実現に向けた基本的な方向や具体的な施策は、総合戦略にまとめております。 本市の将来を支える若い世代が、今後も秋田市に住み続けることができるよう、雇用・子育て施策をはじめとする具体的な施策・事業について、次期総合戦略策定の中で検討してまいります。</p>

5	<p>【2 人口の将来展望について】 今コロナ状況は秋田は自然環境良いのではないかと感じてしまいます。毎年、高、大卒の若い人は生活環境(仕事が多い、賃金が高い、有名企業が多い)など県外に出てしまう。移住の口額多く聞かすが、自然環境的な事を重くみてゐるのではないのでしょうか。以前あるレストランでキリタンポで1,000前後くらいの口算でしたが、キリタンポ3切れ、味は良かったけれども具は少し、食事にならないと思った。秋田の経済もあることですが、地味な活動も必要ではないかと思ひます。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、今、地方で生きることの意味が見直されております。こうした機会を好機と捉え、移住・定住施策を展開するほか、若い世代の生活の基盤となる魅力的で安定した仕事の間づくりや、地域資源を生かした感動に出来るまちづくりを進め、各種施策・事業に一つひとつ丁寧に取り組んでまいりたいと考えております。</p>
6	<p>【P29:暮らしの安全、安心 (ア)空き家の増加について】 もっと踏み込んだ対策(条例を作るとか)が必要になると感じる。</p>	<p>老朽化した危険な空き家対策については、空家等対策の推進に関する特別措置法および秋田市空き家等の適正管理に関する条例等に基づき、所有者に対し助言・指導等を行っているところであり、引き続き対応してまいります。</p>
7	<p>【地域産業の振興と雇用の創出及び人口の将来展望について】 人口ビジョンの取り組みの方向性と視点に2040年度の目標人口置換水準2.07、目標人口26万人達成を維持するとあります。 これを達成するためのプランこそが秋田市総合計画全てのベースであり、切り離して考えることが出来ないことは従来から周知の事実です。 14次計画を策定するにあたり、これまでの計画の総括に基づき2040年度の目標人口達成に有効な計画になるよう望みます。</p>	<p>第14次秋田市総合計画(創生プラン)から必要な事項を取り込み、人口減少対策をまとめた次期総合戦略に基づき、人口ビジョンに掲げた目指すべき将来人口約26万人(2040年)の達成を目指すものであります。次期総合戦略の策定に当たっては、創生プランとの整合を図りながら、第1期の総括を踏まえ、実効性の高い戦略となるよう努めてまいります。</p>
8	<p>①【P10:若者の人口流出について】 進学・就職面での選択肢を増やすこと、就職支援を行う必要があると思う。 ②【P28:介護職員数について】 介護職員の増加を目指すには、介護職員の待遇改善を行うべきだと思う。</p>	<p>①若い世代の地元定着に向け、高校生就職支援講座を通じて、本市産業や地元企業への理解を深め、地元就職意識の醸成を図っているほか、県や関係団体と連携して、市内大学生向けに合同就職説明会等を開催するとともに、市内中小企業とのマッチング機会の拡大に取り組んでいるところであります。今後も、企業の採用活動や人材育成への支援、県外進学者を含む新規学卒者の地元就職を促進する取組を強化してまいります。 ②国・県と連携を図りながら取り組んでまいります。</p>
9	<p>【P43:「(3) 取組の方向性と視点」について】 人口減社会を担うべき問題解決能力やアントレプレナーシップを持った人材の育成、を盛り込むべきです。これは、「総合計画」の「創生戦略1」でも上記した内容ともリンクしています。その時々々の技術や人、資源を活用するという視点はありますが、教育により未来を生み出すという視点が欠けているような印象を受けます。長期的には教育こそが重要です。本文章をブレークダウンして策定されるであろう政策の内容にもつながることなので、「人材の育成」をきちんと言語化して盛り込むべきです。</p>	<p>本市では、今年度から中心市街地へ移転したチャレンジオフィスあきたを新たな拠点施設として、創業機運の醸成から起業家の創業支援に至るまでを「交流」「育成」「起業」の各フェーズに分けて切れ目ない支援を行う、「ビジネススタートアップ支援事業」を実施し、起業家支援を通じて、アントレプレナーとなり得る人材の確保・育成等にも取り組んでおります。 また、小・中学校の総合的な学習の時間を中心に、秋田で活躍する方々との交流などの体験活動を通して、秋田の良さを実感し、郷土を愛する心を育てております。各教科等においても、キャリア教育の視点から、学んだことが社会でどのように活用され、自分の生き方にどうつながっていくのかを考えさせることを大切に学習に取り組んでおり、引き続き、本市の将来を担う人材の育成に努めてまいります。</p>